魅せる。現場を対える人々編へ

天ヶ瀬ダム再開発トンネル流入部 本体他建設工事

新たなスタートを迎えて

『天ケ瀬ダム再開発事業』。流入部は、いくつもの 工事を経て、完成へと向かっている。昨年、巨大 な立坑が完成。今年度から『天ヶ瀬ダム再開発ト ンネル流入部本体他建設工事』がスタートする。

現場を熟知する者の誇りと使命を胸に

初めて作業所長を任される水野は、 「立坑の内部に、高さ約40mに及ぶコ ンクリートの躯体を造る、規模の大 きな工事です。工事期間は約1年間。 これまでの技術者としての経験をも

とにしながら、工事現場のトップとしてチームを まとめることが求められます。前作業所長の『コ ミュニケーションを密に取り、関わる全ての人間 の意見を活かして現場を造るべし』との言葉を胸 に刻んでいます。昨年までこの天ケ瀬ダムで工事 を担当し、現場の隅々まで知っている社員同士で、 知恵を出し合っています。ベストな状態で次の工 事へタスキを繋ぎます」と語る。

> 大成建設株式会社 関西支店 作業所長 みずの もとあき **水野 智亮**





立坑内部に1回につき高さ2mの コンクリートを20回、合計約15.000 mのコンクリートを打設して高さ 40mの躯体を造りあげる。

「硬化するコンクリートは約70度まで発熱します。 今回は厚いコンクリートを何層も打設するので、 その熱量を緻密に計算し、コンクリートの細かな 変化まで予測し対応しなければ、ひび割れなどを 招いてしまいます。安全かつ安心なものを地図に 残すことが我々の使命。セメントの種類やコンク リートの配合、施工方法など、慎重に検討を重ね ています と蒲谷は話す。

「着手までは施工計画の立案を行っています。鉄 筋や足場、型枠をどのように組むかといったこと を、安全を第一に、効率をどう上げていくか、様々 なシミュレーションを行っています。完成後は水

中で稼働するとはいえ、見た目の美 しさも重要です。全ての課題をクリ アする施工計画を立案し、自分が現 場をリードしながら、着実に完成へ 向かいたい。そのためにも常に現場

へ足を運び、端々まで目を行き届かせたいと思っ ています」と監理技術者のバトンを水野から受け

取った谷地は意気込みを語る。

大成建設株式会社 関西支店 課長代理 かばや だいすけ 蒲谷 大輔





慢心せず

完璧を追究する

大成建設株式会社 関西支店 講作 ゃち のぶゆき 谷地 宣之



「これまで先輩や現場の職人さんたちに支えられ て多くのことを学びました。今回の工事では、自 分の責任も大きくなります。これまでの経験を活 かして、現場に貢献します」と話すのは、入社4 年目を迎えて技術者として現場を牽引することを 期待される矢部。

共に現場の最前線にたつ佐々木も、

「一人ひとりが担当業務に使命感をもつことが大 切です。その上で、密なコミュニケーションをとっ て現場を円滑に動かしたいしと話す。

> 「技術者が全力で現場に従事できる ようバックアップするのが事務の職 務だと思っています。笑顔で現場に

向かい、また事務所に戻ってきてもらえるよう、 頑張っています」と話すのは、事務の足立。

CADオペレーターとして現場を支える横尾も 「赴任した当時はまだ立坑自体がありませんでし た。図面とにらめっこしながらできあがった姿を イメージしてパソコンの中で立体化していきまし た。それが実際に姿を現し、さらに今回の工事で はコンクリートの建造物が造られます。現場で使 いやすい図面を作成するよう意識しています。実 際にモノとしてできあがっていく姿を見られるの はとても嬉しいですね」とやりがいを話す。

「地図に残る仕事。」を未来へつなぐ。 全ての社員がその使命と責任感を感じながら工事 に臨む、天ヶ瀬ダム再開発トンネル流入部本体他 建設工事が、いま始まる。

工事の完成と 自身の成長に期待を寄せ

大成建設株式会社 矢部 和史

大成建設株式会社 ^{ぁだち} ゅっこ **足立 美也子**





大成建設株式会社



次回は天ヶ瀬ダム再開発トンネル減勢池部他建設工事の大林・飛島JVが担当します。ご期待ください!